

# 無料体験用テキスト（日商簿記3級）

見本

## 第1章 貸借対照表

### 1. 簿記とは

事業を営むと、日々、商品を仕入れて、その仕入れ代金を支払ったり、もしくは、商品をお客さんに売り渡し、その代金を受け取ったりします。また、広告代や電話代といった諸経費を支払ったり、銀行からお金を借りたり、返したりします。

このように、日々“取引”がおこなわれているわけですが、それでは、商品を仕入れたら仕入れたままでいいのでしょうか？また、代金を支払ったら、そのままでもいいのでしょうか？もちろん、答えはNOです。取引がおこなわれたら、きちんと記録をとっておかないといけません。

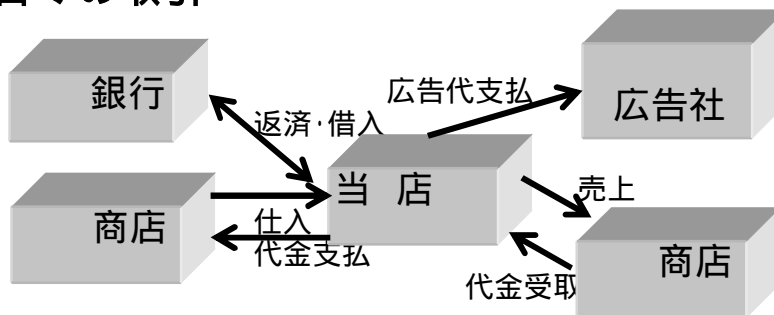
それで、その日々の取引の記録をとっておかないといけないわけですが、それでは、どこに記録を取るのでしょうか？その記録を取るべき場所が帳簿なのです。

このように、日々の取引を帳簿に記録をとっていく必要があるのですが、その「帳簿に記録」の帳簿の簿の記録の記をとって「簿記」といいます。

## 簿記とは？

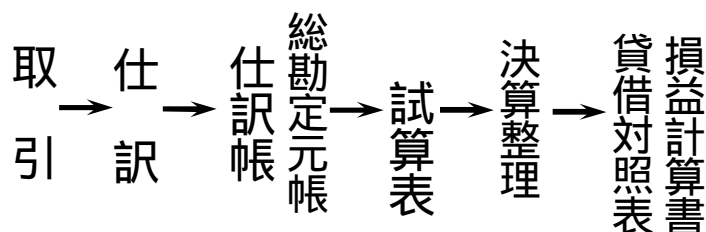
帳 簿 記 録

### 日々の取引



# 無料体験用テキスト（日商簿記3級） 見本

簿記の一連の流れをつかみましょう！



仕訳・・・第4章  
 試算表・・・第4章  
 決算・・・第5章  
 で詳しく学習します。

これから、簿記の学習をしていくわけですが、最終的なゴールは貸借対照表と損益計算書を作成していくこととなります。

## エッセンス

貸借対照表と損益計算書はいわゆる決算書（財務諸表）といわれますが、この貸借対照表と損益計算書は、大企業でも中小企業でも、個人事業でも必ず年1回は作成しなければならない表なのです。

これから、皆さんは簿記をずっと学習していくわけですが、何のための作業かというのは、結局はこの貸借対照表と損益計算書の作成のためにしているということをお忘れなく。

毎年、5月・6月頃になると大企業が新聞に公表しています

バランスシート Balance Sheet といいます。  
 通称：B/S

## 2 貸借対照表

### (1) 貸借対照表の形式

貸借対照表

資産 200円	負債 150円
	資本 50円

### 重要！

ボックスで貸借対照表の形式を覚えましょう！

ここでは、資産・負債・資本とは何かはとりあえず、置いてください。  
 このあと、詳しく学習します。

貸借対照表の左側・・・資産

貸借対照表の右側・・・負債・資本

$$\begin{aligned} \text{資産} &= \text{負債} + \text{資本} \\ 200 \text{円} &= 150 \text{円} + 50 \text{円} \end{aligned}$$

上記の式が成り立つのは右側の合計と左側の合計の金額が一致するからです。

その他の式として、下記の2つの式が成り立ちます。

$$\begin{aligned} \text{資産} - \text{負債} &= \text{資本} \\ 200 \text{円} - 150 \text{円} &= 50 \text{円} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{資産} - \text{資本} &= \text{負債} \\ 200 \text{円} - 50 \text{円} &= 150 \text{円} \end{aligned}$$

# 無料体験用テキスト（日商簿記3級）

# 見本

## （2）資産・負債・資本とは

資産とは、事業を営むにあたって、必要な財貨や債権等といます。資産のおもなものとして、下記のものがあります。

現 金	・・・紙幣・硬貨
売 掛 金	・・・商品を売り渡しさいに生じる債権
貸 付 金	・・・現金を貸し付けたときに生じる債権
商 品	・・・販売するために所有する物品
建 物	・・・営業活動に用いる店舗や事務所
備 品	・・・営業活動をするために必要な机・イス・事務機器
土 地	・・・営業活動に用いる建物などの敷地

開業資金を銀行からの借入でまかなえば、“借入金”

負債とは、銀行からの借入や仕入先へ後日、代金を支払う義務等をいいます。

借 入 金	・・・現金を借り入れたときに生じる債務
買 掛 金	・・・商品を仕入れたときに生じる債務

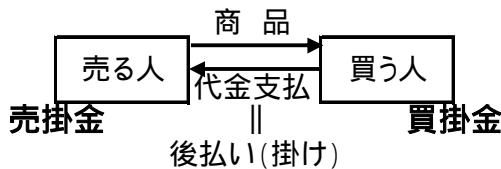
貸借対照表は一定時点の財政状態を示す表である

1/1 現在、現金が450,000 あるということです

## 売掛金と買掛金について

債 権・・・代金を後日受け取る権利

債 務・・・代金を後日支払う義務



左側と右側の合計は必ず一致します（2,350,000 で一致しているように）

**売掛金**とは、商品を売って後日代金を受け取る権利が発生することです。なぜなら、商品を買ったのにそのときに代金を受け取っていないから後日、代金を受け取る権利が発生するのです。

**買掛金**とは、商品を買って後日代金を支払う義務が生じることです。なぜなら、商品を買ったのにそのときに代金を支払っていないから後日、代金を支払う義務が生じるのです。

## （3）貸借対照表の具体例

作成年月日を記入

貸借対照表  
福山商店 平成 年1月1日

資産	金額	負債および資本	金額
現金	450,000	買掛金	250,000
売掛金	500,000	借入金	100,000
商品	1,000,000	資本金	2,000,000
備品	400,000		
	2,350,000		2,350,000

余白の斜線      合計線      締め切り線

# 無料体験用テキスト（日商簿記3級） 見本

## 例題1 - 1

福山商店の資産、負債は次のとおりであった。

- (1) 資産総額、負債総額を求めなさい。
- (2) 資本の額を求めなさい
- (3) 貸借対照表を作成しなさい

現金 ￥90,000    売掛金 ￥150,000    商品 ￥140,000

備品 ￥120,000    買掛金 ￥135,000    借入金 ￥165,000

簿記は「習うより慣れる」という言葉があります。簿記は問題を解く量に比例してできるようになりますので、できる限り多くの問題を解きましょう！！

## 解答

- (1) 資産総額・・・￥500,000    負債総額・・・￥300,000
- (2) 資本の額・・・￥200,000

### 貸借対照表

福山商店		平成 年1月1日	
資産	金額	負債および資本	金額
現金	90,000	買掛金	135,000
売掛金	150,000	借入金	165,000
商品	140,000	資本金	200,000
備品	120,000		
	500,000		500,000

### 解説

現金、売掛金、商品、備品は資産の分類に、買掛金、借入金は負債の分類になります。

また、(1)で求めた資産総額から負債総額を差し引くと、資本の額が求まります。

$$\begin{aligned} \text{資産総額} &- \text{負債総額} = \text{資本の額} \\ \text{¥500,000} &- \text{¥300,000} = \text{¥200,000} \end{aligned}$$

何が資産で、何が負債か、しっかり分類できるようにしましょう！